

まちのたから

発見



民謡、詩吟、尺八、伝統を後世に

瀬川 長夫さん (中山西)



▲「伝統を残していかないといけない」

甲賀市土山町のあいの土山文化ホールで「第24回鈴鹿馬子唄全国大会」が開催され、中山の瀬川長夫さんが見事総合優勝されました。

●念願の優勝

瀬川さんは子どもの頃から音楽が好きでハーモニカやギター、フルートなど、さまざまな楽器を手がけてこられました。民謡を本格的に始められたのは、42歳のときからです。全国のさまざまな民謡を勉強しましたが、隣町土山の全国的に有名な鈴鹿馬子唄に興味を持たれ、やってみたく思っただけです。

これまで20回ほど出場してこられました。昨年は高年の部で優勝され、今年、若年の部の優勝者にも勝ち念願の総合優勝となりました。県内からは三人目です。この大会の優勝者には、民謡歌手のプロになっておられる方もいます。

●練習は車中やお風呂場で

練習は大会前に、出場される皆さんと一緒に先生に指導を受けてされるほか、CD等を使って、車での移動中や入浴中に練習されているそうです。

鈴鹿馬子唄全国大会で総合優勝すると、翌年からは出場することができません



が、瀬川さんは尺八伴奏も担当されていて、これからも伴奏者として大会に参加されます。

また別の唄でも昨年、東近畿民謡大会で部門優勝され今年10月には東京国技館の全国大会に3回目の出場をされます。

尺八は大師範の資格を持ち、自宅で教室を開かれ、町内外の生徒さんを指導されています。

ほかに、詩吟も習い師範の免許を取得され、尺八の伴奏も受け持ちながら数々の発表会に出演されています。

●伝統を守って残していきたい

民謡や尺八を続けておられるのは「日本の伝統文化を残していきたい。次の世代にも残してあげたい」という気持ちからです。毎年グループでわたむきホールや各所で演奏会を開いたり、町内外小学校へ行って尺八などの体験授業をされています。

日野ゴルフ協会さんから町立保育所に絵本をいただきました



日野ゴルフ協会(前田一昭会長)の皆さんから町内の町立保育所へ絵本を寄贈していただきました。

この取り組みはゴルフを通じ、日野町が活性化していくことを願って計画され、今年で10年目を迎えられました。これまで、町内各教育施設や公民館に寄贈していただいております。今回は、日野町立の3保育所への寄贈となりました。

寄贈していただいた絵本は、各保育所で有効に活用させていただきます。

ありがとうございました。



近畿地方郵便局長協会さんと日野ライオンズクラブさんから暑中見舞いはがきをいただきました

近畿地方郵便局長協会と日野ライオンズクラブの皆さんから町内の小学校へ暑中見舞いはがきを寄贈していただきました。

この取り組みは、「はがき」により自分の思いを伝え、相手の気持ちを知るといった心の交流を通して、児童の言語力・表現力の向上、コミュニケーション能力の育成を図るために役立ててほしいとの思いから、平成23年から5年間、毎年寄贈していただいております。

寄贈していただいた暑中見舞いはがきは、各小学校で有効に活用させていただきます。

ありがとうございました。

